

日本生薬学会海外派遣助成事業  
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

(B-2)

1. 派遣者

所属 徳島文理大学香川薬学部 職名 助教 氏名 安元(森)加奈未

2. 研究集会名

(欧文名) International Conference on Biodiversity and Natural Products:  
ICOB-6 & ISCNP-26

(訳文名) 生物多様性と天然物に関する国際会議

3. 派遣期間 平成20年7月12～19日 (8日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字～800字で記載下さい。)

(概要)

2008年7月13日より開催された IUPAC ICOB-6 & ISCNP-26 は、2年に一度開催される International Union of Pure and Applied Chemistry (IUPAC) による天然物ならびに生物多様性に関する国際会議である。本年はカナダ・プリンスエドワード島シャーロットタウンにて開催され、61名の研究者による講演・口頭発表と2日間のポスター発表が行われた。

(成果)

IUPAC ICOB-6 & ISCNP-26 において、参加者がおよそ200人程度と以前日本で行われたものと比べ少なめであったが、各国の天然物化学をリードする研究者が多く招かれていた。植物・海洋天然物などの由来の枠を越え、「くすり」としての天然有機化合物から生体内の機能解明に至るまで、白熱した講演と討論は自分の研究のこれからを考える上で非常に大きな刺激となった。

ポスター発表においては、私の研究テーマである「リーシュマニア症」の流行地であるネパールの研究者から実際の病気の話や現地で使われている植物の話、また私の研究に用いた植物の話など興味深い話を聞くことができた。これをきっかけに研究協力を頂けることになり、メールのやり取りを通じて親睦を深めている。また、参加した他国の研究者から、実験方法のアドバイスや今後の展開についてのサジェッションを頂くこともでき、有意義な学会となった。